

雑草管理を中心とした野そ防除法

福島県農業総合センター 企画経営部企画技術科

1 部門名

その他 - その他 - その他

2 担当者

木幡栄子・大槻晃太

3 要旨

アスパラガスほ場周辺部(作付ほ場から最低5mの範囲)の秋季除草による雑草管理を組み合わせた春・秋季の防除により野その生息密度を低下させることが可能となった。

- (1) 秋季のほ場周辺部の雑草管理(除草)により、翌春以降の野その生息密度を低下できることが示された。また、野その繁殖期となる春・秋季にほ場内外の野そ駆除を行うことでさらに野その生息密度を低下させることが可能である。
- (2) 捕獲わなを比較すると、粘着板は設置後の管理が容易であり単年度のコストは安い。数年単位で資材費を見積もると他の捕獲わなよりも高くなる。パンチュートラップ(プラスチック製ばね式捕獲器)や捕獲カゴは捕獲効率が高く数年単位で見積もった資材費は安くなるが、捕獲個体を除去しなければならないためわな設置後の見回りが必要となる。
- (3) 捕獲わな設置時は、わな周辺の雑草管理(除草)に注意し、わなの餌抜き等わなに慣れた個体が出現した場合には他の捕獲わなを使用するようにした方がよい。
- (4) ほ場内に稲わらや農耕用資材(ビニールなど)があると野その生息場所となるため、資材の撤去・整頓を行う。

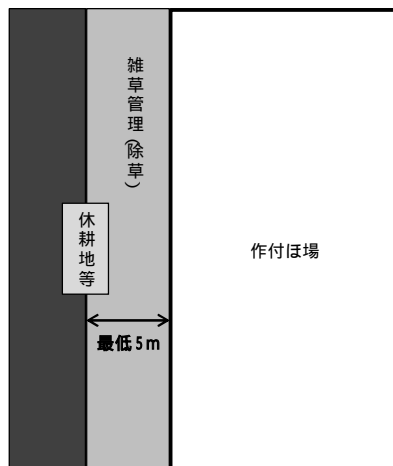


図1 休耕地に隣接しているほ場の雑草管理
(休耕地内の作付ほ場隣接部分を除草)

表1 秋季の雑草管理が生息密度におよぼす影響(喜多方市)

処理区	調査 時期	捕獲頭数 (頭)	10aあたり	
			捕獲数(頭)	移入推定数(頭)
除草区	(1回目処理後) 11月	0	0	0
	4月	1	2	14
	8月	0	0	0
	(2回目処理後) 10月	0	0	0
無処理区	11月	0	0	0
	4月	2	6	57
	8月	0	0	0
	10月	0	0	0

注) 数値は各処理区内の数値。除草は H23.11.30、H24.10.10 に行った。
ほ場内は通常管理(年に数回の草刈り、4月中旬に殺そ剤による駆除)。

表2 捕獲わなの特徴

資材の種類	設置後の 管理	費用		長所	短所
		単価	数年使用の場合		
粘着板				単価が安い(1枚80円強)。設置後の見回りは他のわなより少ない。	わな周辺の雑草管理を行わないと捕獲率が低下する。
パンチュートラップ				3年以上使用する場合、粘着板より安価となる。捕獲効率も粘着板より高い。	設置期間中頻繁にわなの見回りをする必要がある。わなに慣れた個体が出現する可能性がある(餌の抜き取り)。
捕獲カゴ	~			5年以上使用する場合、粘着板より安価となる。設置後の管理は種類により異なる。	種類によって設置期間中に頻繁にわなの見回りをする必要がある。単価が高い(1個約800円~)。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成22年度~24年度
- (2) 研究課題名 鳥獣被害対策技術及び抑制実施手法の確立
- (3) 参考となる成果の区分 指導参考

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成22年度~24年度センター試験成績概要
- (2) 平成21年度即時対応試験成績書